

平成29年度 下北地域広域行政事務組合議員行政視察研修報告書

1 視察日程

平成29年7月12日(水)から7月13日(木)まで

2 視察先及び視察内容

- (1) 八戸セメント株式会社
焼却灰リサイクルについて
- (2) 八戸市一般廃棄物最終処分場
焼却灰の最終処分について

3 参加者

議長	大 瀧 次 男	(むつ市)		
副議長	南 川 誠 一	(東通村)		
議員	原 田 敏 匡	(むつ市)	目 時 睦 男	(むつ市)
	東 健 而	(むつ市)	鎌 田 ちよ子	(むつ市)
	半 田 義 秋	(むつ市)	白 井 二 郎	(むつ市)
	中 村 正 志	(むつ市)	野 呂 泰 喜	(むつ市)
	千代谷 誠	(大間町)	竹 内 弘	(大間町)
	相 内 祥 一	(東通村)	菊 池 隆 年	(風間浦村)
	田 中 岩 男	(佐井村)	山 口 捷 夫	(佐井村)
	熊 谷 晴 雄	(野辺地町)	澤 谷 松 大	(横浜町)
	松 本 光 明	(六ヶ所村)		

4 視察内容

(1) 八戸セメント株式会社 (7月12日(水))

① 施設の概要

- ・ 操業開始 大正10年5月(旧 日出セメント)
- ・ 事業内容 ①セメントの製造・販売
②産業廃棄物・一般廃棄物の処理
- ・ 従業員 社員80名+協力会社常駐70名
=合計150名
- ・ 生産品種 ①普通・早強ポルトランドセメント
②高炉・フライアッシュ混合セメント
③セメント系固化剤
- ・ 生産能力 1,500千t/年



② 施設内見学

- ・ 2班に分かれて、施設内を見学する。



③ 質疑応答

Q 産業種、自治体別の受け入れ数量、金額の年度別内訳はいくらか。

A 産業廃棄物 350,000 t/年

副産物 200,000 t/年

ごみ焼却灰（主灰）：自治体別

県内≒ 5,000 t/年（八戸市、十和田市他）

県外≒12,000 t/年（東京都、千葉県、神奈川県）の自治体）

※金額については非公表。

Q 原料の工場までの運搬経費は、搬入先負担とする工場着渡し契約で行っているのか。

A 通常は搬出する自治体が負担している。

Q 当組合の平成 35 年度供用開始予定である新ごみ処理施設では、約 2,500 t/年の焼却灰（主灰・飛灰共）が発生する予定であるが受入は可能か。

A 前向きに検討したいが、各自治体は 1 年毎の契約であり現時点では約束できない。

Q 処理単価は主灰・飛灰でいくらか。

A あくまで概算であり、下記処理単価より高いところもあります。

主 灰 25,000 円/t

飛 灰 50,000 円/t（除塩コスト含む）

Q 会社として、周りへの経済効果は、また、利益はどのくらいあるのか。

A 年間生産能力 150 万トンに対して、昨年は約 136 万トンの生産量があったことから、それなりの経済効果もあるものと考えている。利益については非公表。

Q 鉱山から石灰石を地下 10 キロのベルトコンベアーで運んでいるということだが、それに関して問題はなかったのか。また、あとどのくらいの期間、採掘できるのか。

A その部分については、鉱山会社が運営管理している。

また、採掘がどのくらい可能かということ、今まで創業してから約 100 年間採掘し続けているが、今後、約 500 年間は採掘できるという調査結果が出ている。

(2) 八戸市一般廃棄物最終処分場（7月12日(水)）

① 施設の概要

- | | |
|---------|--|
| ・ 用途・分類 | 一般廃棄物最終処分場 |
| ・ 所在地 | 八戸市大字櫛引字湯ノ沢 2-6 |
| ・ 敷地面積 | 135,666 m ² |
| ・ 埋立面積 | 15,400 m ² |
| ・ 埋立容積 | 214,000 m ³ |
| ・ 埋立廃棄物 | 不燃物、焼却残渣、粗大不燃残渣、道路清掃土砂等 |
| ・ 埋立期間 | 平成 25 年 7 月～15 年間（予定） |
| ・ 埋立施設 | 施設構造 クローズドシステム（被覆型）
鉄筋コンクリート槽 4 区画
埋立中の区画に膜屋根（移動式） |





Q 受入限度容量と年間搬入量と使用予定見込は何年度までか。

A	全 区 画	214,000m ³	
	年間搬入量	28年度 10,571 t	27年度 10,275 t
	使用予定	42年度（屋根復旧期間を除いて15年間）	

Q 施設の管理運営主体と、年間の維持管理費用はいくらか。

A 管理、受付及び埋立業務は民間委託。

年間維持管理費 約 55,000 千円

- ・ 管理業務委託 25,380 千円
- ・ 土堰堤設置 22,270 千円
- ・ 中間覆土材 1,077 千円 (15年で按分)
- ・ 融雪装置等 170 千円 (15年で按分)
- ・ そ の 他 6,000 千円

合 計 54,897 千円

※歳入（埋立処分手数料）は約1億円/年

5 総括

(1) 八戸セメント株式会社

会議室にて八戸セメント株式会社 代表取締役社長 井上慎一氏 より歓迎の挨拶を受け、次に、当組合の大瀧議長の挨拶があり、続いて施設の概要についてDVD等で説明を受ける。

まず、この施設では、セメントの主原料である石灰石などに自治体の清掃工場で発生する焼却灰を加えて調合原料としたものを、石炭と廃油や廃タイヤなどを燃料とした1,450℃の高温な焼成施設で化学反応させた後、セメントに仕上げているとのことであった。

その後、焼却灰の仮置き場所、その中から強力な磁石で金属片を除去する場所、中央操作室、及び焼成施設などを見学した。

その中に、地上76メートルの高さのタワーがあり、そこに登り説明を受けながら見学する。最上階からは、他の工場がいくつも建ち並ぶ様子が見られ、まさにエコタウン企業群がここに集約されていた。

最後に、会議室にもどり、質疑応答が行われた。様々な質疑に、はっきりとした回答がなされた。利益については非公表であったが、それでも十分な利益があることは、受け答えか

ら理解できた。

この大きな工場は7人体制・3交代制・24時間・365日稼働するために集中管理をし、企業ならではの人件費を含む徹底的なコスト削減と有効利用により、生産性の向上と利益を生み出し、さらに資源のリサイクルと環境に配慮した工場となっていた。

そこには、石灰石からセメントを作るだけでなく、産業廃棄物や焼却灰等を受け入れてセメント化する完全リサイクル型の工場として進化し、社会貢献をするという企業ならではの理念が明確に表れていた。

(2) 八戸市一般廃棄物処分場

会議室にて清掃事務所長より歓迎の挨拶を受け、当組合の大瀧議長からの挨拶終了後、施設の概要についてDVD等で説明を受ける。屋根付きの処分場としては、全国で5番目の規模とのことであった。

その後、同建物内にある汚水を浄化して下水に流すための装置を、ガラス越しに見学したのち、埋め立て現場に移動する。

白い屋根に覆われた埋め立て現場は、1区画が地下13メートル・幅32メートル・長さ120メートルに掘られていて、4区画のうちの1番端に屋根が配置されていて埋め立ては始まっていた。ちょうどトラックで廃棄物が搬入されている場面上から見学する機会があったが、臭いもなく飛散する様子もなく、屋根・骨組み・露水センサー等の最新設備の特性が活かされていた。また、1区画が埋め立てられると屋根は25分割されて、次に移動し組み立てられ、最終的にすべての4区画の埋め立てが15年間で終了する予定である。その後は平地として公園等に再利用されることが決まっている。環境に優しく、付近の住民の理解を得やすく、埋め立て終了後は、市民が利用できる場所となるなど、様々なメリットのある施設であった。

当組合にとって、2施設ともに大いに参考となる部分が多々あり、有意義な議会議員行政視察研修であった。

以上のとおり、行政視察研修報告します。

下北地域広域行政事務組合議会議長 大瀧 次 男